

京丹後市教育振興計画

施策評価・進捗管理調書(内部評価結果)

担当課	担当課長
教育総務課	西村 隆
学校教育課	上羽 正行

重点目標	2 確かな学力・生き抜く力を育みます
基本の方針	<p>保幼小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。</p> <p>一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化や情報化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。</p> <p>少子化の進行による学校の小規模化が予想されるなか、令和3年度に策定した学校適正配置基本計画に基づき、今後の学校の適正配置を進めます。</p>

1. 施策の方向性

PLAN

1. 保幼小中一貫教育の推進	<p>① 学校教育改革構想に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む保幼小中一貫教育を推進します。</p> <p>② 学園(中学校区)を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学校園の教育活動を一層進めます。</p> <p>③ 保幼小中一貫教育等について保護者や地域の理解を深めるとともに連携を強化するため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供・共有の機会を拡充します。</p> <p>④ 学識経験者や市民、保護者及び学校園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。</p> <p>⑤ 保幼小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校・学園評価の充実に努め、地域とともにある学校・学園づくりを推進します。</p>
2. 学校園、家庭、地域の協働による教育力の向上	<p>① 子どもの発達や学習の特性等に応じた系統的で一貫性のある教育課程により、すべての学校園で就学前から中学校卒業までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。</p> <p>② 学習指導要領に求められる教職員の資質・能力を育成するため、授業実践力や本市の児童生徒の現状を踏まえた生徒指導力を高める研修を充実します。</p> <p>③ 加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。</p> <p>④ 京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇りを高めるとともに、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。</p> <p>⑤ 子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学校園と家庭が連携した取り組みを充実します。</p> <p>⑥ 学校園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。</p> <p>⑦ 地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」を推進します。</p> <p>⑧ 放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制づくりを進めます。</p>
3. 確かな学力の育成	<p>① 保幼小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した学習指導を充実します。</p> <p>② 全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を概ね上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的にを行います。</p> <p>③ すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実を位置付け、系統的・継続的な指導を行います。</p> <p>④ 「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。</p> <p>⑤ 主体的に学びに向かう力や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学校園に普及します。</p> <p>⑥ 家庭学習が定着するよう、学校園と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。</p> <p>⑦ 学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校と高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。</p>
4. 社会を生き抜く力の育成	<p>① 子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方・働き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。</p> <p>② 「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。</p> <p>③ 児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲と学習効果を高めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。</p> <p>④ 小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。</p> <p>⑤ 国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多文化共生社会の視点に立ち、諸外国の文化や伝統を理解し興味・関心を深める国際理解教育を推進します。</p> <p>⑥ 環境の保全や主体的に環境に働きかける実践の態度・能力を育成するため、身近な環境に関心を持ち人間と環境との関わりについて理解を求める環境教育を推進します。</p>

【参考】施策に関連するその他の計画

計画名称	計画概要	策定年月	計画期間	備考
第2次京丹後市総合計画	市の目指す基本理念、目標、将来像などを示した「基本構想」と、その構想を実現するための各種施策を総合的、計画的に体系化した「基本計画」	平成27年3月	平成27年度～令和6年度	
京丹後市学校教育改革構想	中学校卒業時に期待される学力をすべての生徒が確実に身に付けることができるようにしていくため、保育所・幼稚園、小学校、中学校の10年間を見据え、より系統的で一貫性のある教育を実践するための構想を策定	平成24年11月	計画期間の定めなし	

2. 主な取組と構成事務事業一覧

PLAN

DO

※各事業の成果・課題については、別紙決算附属資料参照

CHECK

ACT

1. 保幼小中一貫教育の推進		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
<p>① 学校教育改革構想に基づき、子どもたちの「確かな学力」と「社会を生き抜く力」を育む保幼小中一貫教育を推進します。</p> <p>② 学園(中学校区)を単位とした共通の目指す子ども像を設定し、その実現に向けて系統的で一貫性のある学園の教育活動を一層進めます。</p> <p>③ 保幼小中一貫教育等について保護者や地域の理解を深めるとともに連携を強化するため、教育フォーラムを開催するなど、学校教育改革に関する情報提供・共有の機会を拡充します。</p> <p>④ 学識経験者や市民、保護者及び学園関係者等が、学校教育改革を適切に検証、評価し、取り組みの改善を進めます。</p> <p>⑤ 保幼小中一貫教育等における目標の実現状況や教育活動の成果が明らかになるよう、学校・学園評価の充実に努め、地域とともにある学校・学園づくりを推進します。</p>						
1	保幼小中一貫教育推進事業《再掲》	学校教育課	-	-	-	統合(整理)
<p>「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育の推進に向け、協議会及び専門部会で調査研究を行う。また、子どもたちの学びを支える教員の授業力と学級経営力を高めるための研修を実施し、指導の一貫性を通じて子どもたちの確かな学力、豊かな心を育成する。</p>						
2	保幼小中一貫教育実践事業	学校教育課	5,046	5,085	-	統合(整理)
<p>「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育を実践し、学力の向上及び生徒指導上の課題解決を目指すとともに、将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子どもを育成するほか、地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実に努める。</p>						
2. 学園、家庭、地域の協働による教育力の向上		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
<p>① 子どもの発達や学習の特性等に応じた系統的で一貫性のある教育課程により、すべての学園で就学前から中学校卒業までの系統的な指導を実施するとともに、小中学校の接続期の指導を充実します。</p> <p>② 学習指導要領に求められる教職員の資質・能力を育成するため、授業実践力や本市の児童生徒の現状を踏まえた生徒指導力を高める研修を充実します。</p> <p>③ 加配教職員やスクールサポーターを効果的に配置し、児童生徒一人ひとりの学習状況に応じた指導体制を整えます。</p> <p>④ 京丹後市への理解を深め、郷土への愛着と誇りを高めるとともに、地域生活への意欲を系統的に育む「丹後学」を、地域の人々の協力と参画により、すべての小中学校で実施します。</p> <p>⑤ 子どもたちの基本的な生活習慣や家庭学習習慣の確立等について、学園と家庭が連携した取り組みを充実します。</p> <p>⑥ 学園、家庭及び地域が育みたい子ども像や課題を共有し、連携・協力して進める地域の教育環境づくりを推進します。</p> <p>⑦ 地域と学校の連携・協働の下、学校の教育活動に地域のボランティアが参画する「地域学校協働本部事業」を推進します。</p> <p>⑧ 放課後における学習や体験活動の充実に向け、学校、家庭及び地域が連携し、地域ぐるみの学習環境の体制づくりを進めます。</p>						
3	学習支援体制整備事業	学校教育課	729	579	659	現状維持
<p>「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、生徒と保護者のニーズを踏まえ、放課後を活用した子どもたちの学びを支援する教育活動を実施する。</p>						
4	地域学校協働本部事業	生涯学習課	3,643	3,677	6,256	拡大
<p>「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実に努めるため、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターを配置する。</p>						
3. 確かな学力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
<p>① 保幼小中一貫教育により校種間を円滑に接続し、就学前から中学校卒業までの10年間を見通した学習指導を充実します。</p> <p>② 全国学力・学習状況調査の結果が、現在、全国・府平均を概ね上回っている学力についても、診断結果をもとに児童生徒の学力状況をきめ細かく把握するとともに、分析結果を活用した指導改善により、児童生徒一人ひとりに応じたきめ細かな指導を継続的に進めます。</p> <p>③ すべての教科や特別活動に「言語活動」や「コミュニケーション活動」の充実に位置付け、系統的・継続的な指導を行います。</p> <p>④ 「丹後学」において京丹後市の学習素材を活かした体験的な学習や問題解決的な学習を行うなど、児童生徒が目的意識を持って主体的に取り組む学習を充実します。</p> <p>⑤ 主体的に学びに向かう力や思考力、判断力、表現力等、習得した知識や技能を活用する力を育成するため、教育実践モデル校等を指定し、その実践と成果をすべての学園に普及します。</p> <p>⑥ 家庭学習が定着するよう、学園と家庭が連携して児童生徒の主体的な学習習慣を育成します。</p> <p>⑦ 学校支援ボランティアや大学のもつ専門性を活用したり、小中学校と高等学校が積極的に連携・交流したりするなど、児童生徒の知的好奇心や学習意欲を育むための取り組みを充実します。</p>						

3. 確かな学力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
5	学務経費	学校教育課	4,763	4,776	4,874	現状維持
	学校保健安全法に基づく就学時健康診断を行うとともに、学齢簿の管理、学校管理下での安全衛生や事故災害に対応する。また、小中学校の枠を超えた取組として、特別支援学級ふれあい交流会を実施する。					
6	小学校丹後学等教育活動実践事業	学校教育課	1,635	1,741	1,434	現状維持
	地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。					
7	中学校丹後学等教育活動実践事業	学校教育課	1,241	1,386	1,161	現状維持
	府の研究指定を受け、教員の指導力向上等に取り組むとともに、地域学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の経費を支援する。					
8	小学校教育振興事業	学校教育課	17,722	52,802	29,028	現状維持
	児童の学力充実、向上を目指すとともに、豊かな人間性、健やかな体づくりなど児童の「たくましく生きる力」を育成するため、学力調査等を踏まえた指導、副読本の活用や学習教材冊子の作成、学校外での学習活動等を取り入れ、教育内容の充実を図る。					
9	小学校教育振興備品整備事業	学校教育課	10,508	9,398	8,020	現状維持
	児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させ、学力の向上を目指すため、授業に必要な学習教材を整備し、学習活動と教育内容の充実を図るとともに、学校図書を計画的に整備する。					
10	小学校就学援助事業	学校教育課	19,691	19,243	24,145	拡大
	経済的理由によって就学困難な児童の保護者を支援するため、学用品費、学校給食費、医療費等を支給するとともに、特別支援学級入級児童等の保護者の経済的負担を軽減するため、奨励費を支援するほか、障害等により通学が困難な児童が公共交通等を利用した際の通学費(交通費)及び送迎時の燃料代を支給する。					
11	中学校教育振興事業	学校教育課	25,955	24,127	35,168	現状維持
	生徒の学力充実、向上を目指すとともに、豊かな人間性、健やかな体づくりなど生徒の「たくましく生きる力」を育成するため、学力調査等を踏まえた指導、副読本の活用や学習教材冊子の作成、学校外での学習活動等を取り入れるとともに、体育大会への参加や部活動等を支援し、教育内容の充実を図る。					
12	中学校教育振興備品整備事業	学校教育課	10,874	7,336	6,619	現状維持
	生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させ、学力の向上を目指すため、授業に必要な学習教材を整備し、学習活動と教育内容の充実を図るとともに、学校図書を計画的に整備する。					
13	中学校就学援助事業	学校教育課	18,894	20,001	23,452	拡大
	経済的理由によって就学困難な生徒の保護者を支援するため、学用品費、学校給食費、医療費等を支給するとともに、特別支援学級入級児童等の保護者の経済的負担を軽減するため、奨励費を支援するほか、障害等により通学が困難な児童が公共交通等を利用した際の通学費(交通費)及び送迎時の燃料代を支給する。					
4. 社会を生き抜く力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)					担当課
<p>① 子どもたちが将来、社会的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方・働き方を実現する力を身に付けるため、就学前教育から義務教育修了時まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を推進します。</p> <p>② 「丹後学」において、郷土とそこに生きる人々を通じた探究活動を充実し、自己の生き方・あり方について深く考える力を育てるとともに、児童生徒の将来への夢や希望を育みます。</p> <p>③ 児童生徒の学習に対する興味・関心や意欲と学習効果を高めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を育成するため、情報通信ネットワークやコンピュータなどのICT環境を整備します。</p> <p>④ 小学校低学年から英語に親しむ活動を充実するなど、国際社会に生きる日本人としての基礎的な能力を系統的に育成します。</p> <p>⑤ 国際感覚を持ちグローバル社会で活躍できる人材を育成するため、多文化共生社会の視点に立ち、諸外国の文化や伝統を理解し興味・関心を深める国際理解教育を推進します。</p> <p>⑥ 環境の保全や主体的に環境に働きかける実践的態度・能力を育成するため、身近な環境に関心を持ち人間と環境との関わりについて理解を求め環境教育を推進します。</p>						
14	学校情報化推進事業	学校教育課	56,940	50,027	43,091	現状維持
	GIGAスクール構想に基づいて整備したICT環境を活用し、児童生徒にとってわかりやすく魅力のある授業を進め、児童生徒の情報利活用能力を育成するほか、児童生徒・教職員1人1台タブレット端末等の電子機器の導入、校内LAN及び学校情報通信ネットワークを維持管理するとともに、教育のICT化及び校務の効率化を図る。					
15	グローバル人材育成事業	学校教育課	7,296	17,365	22,429	拡大
	国際感覚を持ち将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、市内の小中学校に在籍する児童生徒を中心に、諸外国への興味関心を深め文化や伝統を理解する機会を創設し外国語教育の充実を図るとともに、産学連携のもと新たな可能性を創造するSTEAM教育の推進を図る。					
16	外国語指導助手招致事業	教育総務課	25,458	25,486	24,214	縮小
	中学校の英語授業補助、小学校の外国語授業及び外国語活動推進のため、一般財団法人自治体国際化協会のJETプログラムを活用して、外国語指導助手(ALT)を招致・任用する。					
17	国際交流員招致事業	学校教育課	4,020	4,322	4,649	現状維持
	グローバル化に対応するため、一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業(JETプログラム)」を活用し、国際交流員(CIR)を任用する。					

4. 社会を生き抜く力の育成		決算額(単位:千円)			事務の改善	
主な取り組み		R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性	
↓	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課				
18	奨学金事業 大学等の高等教育への進学を希望する者で、経済的理由により修学困難な者に対して奨学金の給付及び貸付を行う。また、大学等を卒業後に就業する者で、本市に定住し、奨学金の返還を行う者に対する定住促進奨学金支援を行い、将来を担う若者のふるさと回帰と地域の活性化を図る。	教育総務課	27,499	38,964	64,415	拡大
上記の「主な取り組み」への位置付けが困難な事業		決算額(単位:千円)			事務の改善	
	事務事業名称・事業内容(実績)	担当課	R4決算額	R5決算額	R6予算額	評価を踏まえた今後の方向性
19	奨学基金 経済的理由により大学等での修学が困難な者に対し、奨学金を給付することを目的に、奨学基金へ積み立てるもの。	教育総務課	721	827	12	現状維持
20	谷口謙・未来応援基金 経済的理由により大学等での修学が困難なものに対し、奨学金を貸し付けることを目的に、谷口謙・未来応援基金へ積み立てるもの。	教育総務課	2,845	3,183	1,841	現状維持
計			245,480	290,325	301,467	

3. 教育振興計画で掲げている主な目標指標

基本的方針	<p>保幼小中一貫教育を柱とする学校教育改革の推進により子どもの成長に応じた指導の一貫性を確保する体制を充実することで「確かな学力」を育み、あわせて、学校園、家庭及び地域が協働し、相互に連携しながら教育力の向上を図ります。</p> <p>一人ひとりの個性や能力、確かな学力を育むとともに、地域社会への理解と関心を高め、グローバル化や情報化等の社会の変化に対応するなど、将来への夢と希望を基盤として未来を切り拓くことのできる「生き抜く力」を育みます。</p> <p>少子化の進行による学校の小規模化が予想されるなか、令和3年度に策定した学校適正配置基本計画に基づき、今後の学校の適正配置を進めます。</p>							
	主な目標指標	目標指標	単位	計画作成時 年度	実績値(現状) 年度	目標値 年度		
	学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)	中学校区	0 H25	6学園 R5	6(全中学校区で実施) R6			
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童の割合<小学生>	%	73.2 「全国学力・学習状況調査」児童質問紙(小6) H25	62.8 R5	80%以上 R6			
	学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の生徒の割合<中学生>	%	50.6 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙(中3) H25	63.3 R5	70%以上 R6			
	一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着	%	小中学校各教科の全国平均正答率 -	中学校英語のみ全国平均以上 R5	市平均の全教科全国平均以上 R6			
	将来の夢や目標を持っている生徒の割合<中学生>	%	70.0 「全国学力・学習状況調査」生徒質問紙(中3) H25	67.6 R5	90%以上 R6			

4. 施策の進捗状況の評価と今後の課題[基本的方針の達成に向け、施策がどの程度進捗しているか]

CHECK **ACT**

進捗状況区分	評価	令和5年度成果と今後の課題
◎ 予定以上に進んでいる	○	<p>《学校園関係者による中学校区(学園)ごとの検証・評価・取り組みの改善のサイクルの確立(実施中学校区)》 学園ごとに設置した学校運営協議会の中で、各学園の評価アンケートを示し、学園の取組等に対する評価と検証の場が位置付いている。また、そうしたことを受けて、学校運営協議会の活動報告書を作成することで、成果や次年度に向けた課題及び目標を整理することができ、改善サイクルが確立できている。</p> <p>《学校の授業時間以外の勉強時間が1時間以上の児童生徒の割合》 令和4年度の評価を「学校の家庭学習時間は年々減少傾向にあり、授業と家庭学習を連動させた指導の改善が求められる。」としたものの、令和5年度において中学校は増加したが、小学校はさらに減少している。 令和6年度には、家庭学習の在り方について、市学力向上対策会議の重点課題として取り組み、各校・各学園での取組を一層充実させ、「自ら学習を調整する力」の育成につながるタブレットの持ち帰り学習と授業の連動を推進する。</p>
○ 予定どおり進んでいる		
▲ 少し遅れている		
× 大幅に遅れている		

進捗状況区分	評価	令和5年度成果と今後の課題
		<p>《一貫性・系統性のある指導による確かな学力の定着》 令和5年度の結果を見ると、令和4年度に唯一全国平均以上であった中学校国語も全国平均を下回る結果となった。 令和6年度は、求められる資質・能力が向上される授業とは、どのような姿なのか、今一度振り返る必要がある。その上で、各校・各学園で一層推進していく必要がある。「探究的な学び」やICTを活用した「個別最適な学び」「協働的な学び」について、研究協力教員を募り、先進的な実践者による日常的な助言と講義をセットで実施することで、授業改善の具体を学ぶ機会を設ける。 また、その成果を市内に波及させる。その一環として中部大学の樋口万太郎准教授に講義を聞くことで、小中学校の教諭が学び、自分の実践に生かすことで指導力の向上を図る。</p> <p>《将来の夢や目標を持っている生徒の割合》 年々の減少は下げ止まったが依然として目標値には達していない。夢や目標を「職業」のみに焦点を当てるのではなく、自分の生き方を考える活動を学校教育の中で推進していく必要がある。その際、「丹後学」や児童生徒が学びを記録し蓄積する教材として「キャリアパスポート」等を活用し、児童生徒が自分の成長を振り返りながら、夢や希望、将来への展望を育む活動を推進・充実を図る必要がある。</p>

5. 今後の施策展開の考え方(令和6年度までの主な取組)

ACT

区分	No.	具体的内容
施策展開の考え方	1	平成28年度からの小中一貫教育の全市展開では、実質的に保育所・幼保連携型認定こども園の就学前1年を含めた10年間の一貫教育を行っていることから、令和3年1月に名称を「保幼小中一貫教育」に改めた。学園単位によるPDCAサイクルの実施とその検証・評価に基づく保幼小中一貫教育推進基本計画等の適切な改訂を行う。また、市教育フォーラム等の啓発活動により、教職員・保護者・地域住民への成果の明確化を図る。
	2	学園コーディネーター等の配置を継続するとともに、各学園に設置された学校・地域連携協議会の学園運営協議会(コミュニティ・スクール)への移行が令和2年度に完了したことから、学校、家庭、地域が連携した学習環境の体制作り、目指す子ども像に基づく学校・地域が連携した取組を一層推進する。
	3	京丹後市保幼小中一貫教育モデルカリキュラム丹後学【令和5・6年度活用版】等を活用した各学園での系統的で一貫性のある指導を充実させるため、授業改善・授業研究を更に推進するとともに、全国学力・学習状況調査の学園分析結果を活用し個に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
	4	総合的な学習の時間を活用した「丹後学モデルカリキュラム」の自校園化に向けた取組と興味・関心・意欲を高めるICT機器の整備推進を図るとともに、中学生の海外派遣やSTEAM教育の推進・英語運用能力の向上に取り組むとともに、児童生徒の国際交流等を推進することにより、問題解決能力や多様な他者と協働する力、英語運用能力を高め、本市で目指すグローバル人材の育成を図る。

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	5,085千円	5,827千円	742千円	87.2%		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事業	15 保幼小中一貫教育実践事業				5,827千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源					
目的	「京丹後市の学校教育改革構想」に基づき、保幼小中一貫教育を実践し、学力の向上及び生徒指導上の課題解決を目指すとともに、将来に夢と希望をもって生き生きと学ぶことのできる子どもを育成するほか、地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。							
主要な事務・事業の概要	○小中連携・小小連携・保幼小連携の取組（各中学校区単位） （報償費、消耗品費、印刷製本費等）		3,452千円	○京丹後市保幼小中一貫教育研修会（講師謝金、通信運搬費） 63千円 開催日：令和5年8月2日（水） 参加者：89人 対象：市内学校園所教員、教育関係者 講師：石川 英明 氏（株式会社コーデューケーション 代表取締役） 場所：アグリセンター大宮				
	・峰山学園：SNS研修会、授業体験等 630千円 ・大宮学園：SNS研修会、授業体験等 599千円 ・網野学園：授業研修会、ゲーム・ネット講座等 705千円 ・丹後学園：部活動体験、授業実践力向上講演会等 398千円 ・弥栄学園：情報モラル学習会、授業体験等 522千円 ・久美浜学園：SNS講演会、講演会等 598千円							
○特色ある学校づくりの取組（報償費、消耗品費、委託料等） 1,570千円 実施校：全校 主な取組：郷土学習、環境学習、農業体験、人権学習、ばら寿司作り、福祉体験講座、性教育、SDGsに関する取組等								
				成果・課題	○保幼小中一貫教育の実施によりを設定し、カリキュラムや指導方法等を統一することで、学園内の小中学校が一体となった教育活動を系統的に行うことができた。 ○特色ある学校づくりとして、地域に関する学習を支援することにより「丹後学」の充実を図ることができた。 ○今後もより効果的な連携を進めていくため、教育研修会の内容を充実させていく必要がある。			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																			
	項	01 教育総務費	579千円	660千円	81千円	87.7%																					
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課																			
	事業	11 学習支援体制整備事業				860千円																					
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源	府補 地域で支える学校教育推進事業費補助金（2/3） 382千円																							
目的	「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、生徒と保護者のニーズを踏まえ、放課後を活用した子どもたちの学びを支援する教育活動を実施する。																										
主要な事務・事業の概要	○中学生の放課後学習支援（講師謝金、消耗品費） 579千円 放課後を活用した学習を希望する生徒を対象に、学習習慣の確立と基礎学力の定着、学力向上による高校進学率の向上を目的として、放課後の学習支援を行った。																										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>回数</th> <th>参加者数（延べ）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>峰山中学校</td> <td>17回</td> <td>325人</td> </tr> <tr> <td>大宮中学校</td> <td>16回</td> <td>393人</td> </tr> <tr> <td>網野中学校</td> <td>23回</td> <td>631人</td> </tr> <tr> <td>丹後中学校</td> <td>25回</td> <td>743人</td> </tr> <tr> <td>弥栄中学校</td> <td>39回</td> <td>492人</td> </tr> <tr> <td>久美浜中学校</td> <td>38回</td> <td>1,163人</td> </tr> </tbody> </table> ※時期・回数・時間等計画内容は、学校によって異なる。		学校名	回数	参加者数（延べ）	峰山中学校	17回	325人	大宮中学校	16回	393人	網野中学校	23回	631人	丹後中学校	25回	743人	弥栄中学校	39回	492人	久美浜中学校	38回	1,163人				
学校名	回数	参加者数（延べ）																									
峰山中学校	17回	325人																									
大宮中学校	16回	393人																									
網野中学校	23回	631人																									
丹後中学校	25回	743人																									
弥栄中学校	39回	492人																									
久美浜中学校	38回	1,163人																									
				成果・課題	中学生の学習習慣の確立と基礎学力の定着に寄与した。また、ICT機器を活用し、個々の学習進度に応じた学習を行うことができた。																						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																						
	項	01 教育総務費	3,677千円	3,844千円	167千円	95.6%																																								
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額																																								
	事業	10 地域学校協働本部事業				4,259千円																																								
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源	府補 地域で支える学校教育推進事業費補助金(2/3)		1,563千円																																								
目的	「教育と学びのまち 京丹後」の実現に向け、「学校のニーズ」と「地域の人の持つ力」を結び付け、学校・家庭及び地域が協力して子どもを育む環境の充実を図るため、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターを配置する。																																													
主要な事務・事業の概要	<p>地域全体で学校教育を支援するため、様々な特技や技能を持った地域の人材を「学校支援ボランティア」として登録し、全てのこども園、小・中学校で、学習支援やクラブ活動支援、学校の環境整備などを実施した。</p> <p>○地域コーディネーター配置(各中学校1人:計6人) 3,231千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーター謝金 2,899千円 地域コーディネーター費用弁償 332千円 <p>○広報紙の発行(年2回:ボランティア募集、活動報告) 298千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 印刷製本費 <p>○その他経費(旅費、消耗品等) 148千円</p> <p><活動概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 実施期間 令和5年4月1日~令和6年3月31日 実施場所 市内全小学校(17校)、中学校(6校) 市立認定こども園(6園) ボランティア登録者数 645人(令和5年度新規登録者数40人) <p>※ボランティアの登録状況(令和6年3月末現在)</p> <table border="1"> <tr> <th>町域</th> <th>峰山</th> <th>大宮</th> <th>網野</th> <th>丹後</th> <th>弥栄</th> <th>久美浜</th> <th>市外</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>人数</td> <td>149人</td> <td>90人</td> <td>176人</td> <td>75人</td> <td>74人</td> <td>69人</td> <td>12人</td> <td>645人</td> </tr> </table>		町域	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	市外	合計	人数	149人	90人	176人	75人	74人	69人	12人	645人	<p>【ボランティア活動の内容等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援(教科指導補助、「総合的な学習」講師補助、部活動指導支援等) 環境支援(学校環境整備、学校図書室整理、安全確保、学校行事等の補助等) <table border="1"> <tr> <th>区 域</th> <th>活動日数</th> <th>活動人数(延べ)</th> </tr> <tr> <td>峰山学園</td> <td>575日</td> <td>2,632人</td> </tr> <tr> <td>大宮学園</td> <td>106日</td> <td>120人</td> </tr> <tr> <td>網野学園</td> <td>605日</td> <td>3,186人</td> </tr> <tr> <td>丹後学園</td> <td>123日</td> <td>241人</td> </tr> <tr> <td>弥栄学園</td> <td>325日</td> <td>463人</td> </tr> <tr> <td>久美浜学園</td> <td>447日</td> <td>3,230人</td> </tr> <tr> <td>合 計</td> <td>2,181日</td> <td>9,872人</td> </tr> </table>		区 域	活動日数	活動人数(延べ)	峰山学園	575日	2,632人	大宮学園	106日	120人	網野学園	605日	3,186人	丹後学園	123日	241人	弥栄学園	325日	463人	久美浜学園	447日	3,230人	合 計	2,181日	9,872人
	町域	峰山	大宮	網野	丹後	弥栄	久美浜	市外	合計																																					
人数	149人	90人	176人	75人	74人	69人	12人	645人																																						
区 域	活動日数	活動人数(延べ)																																												
峰山学園	575日	2,632人																																												
大宮学園	106日	120人																																												
網野学園	605日	3,186人																																												
丹後学園	123日	241人																																												
弥栄学園	325日	463人																																												
久美浜学園	447日	3,230人																																												
合 計	2,181日	9,872人																																												
成果・課題	<p>○地域住民の経験や特技を学校の教育活動等に活かすことで、地域による学校教育支援はもとより、多世代交流に繋がり、市民の生きがいづくりになっている。</p> <p>○学校活動の多様なニーズを把握するとともに、それに対応するボランティアを確保し、ニーズや特徴を充足する日数や内容の活動を行うことが必要である。</p>																																													

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	4,776千円	4,867千円	91千円	98.1%		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額		
	事業	05 学務経費				4,972千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源					
目的	学校保健安全法に基づく就学時健康診断を行うとともに、学齢簿の管理、学校管理下での安全衛生や事故災害に対応する。 また、小中学校の枠を超えた取組として、特別支援学級ふれあい交流会を実施する。							
主要な事務・事業の概要	<p>○就学時健康診断(受診人数:342人) 696千円</p> <p>(医師謝金、費用弁償、新型コロナ対策用消耗品費等)</p> <p>○学務経費 467千円</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康管理票作成等(消耗品費、印刷製本費) 23千円 学齢簿関連システム保守委託料 264千円 人権教育研究会活動に係る資料代(消耗品費) 23千円 各中学校区での特別支援学級ふれあい交流会(消耗品費) 47千円 峰山学園(開催日:10月23日(月)、参加者数:39人) 大宮学園(開催日:11月7日(火)、参加者数:18人) 網野学園(開催日:10月25日(水)、参加者数:52人) 丹後学園(開催日:11月8日(水)、参加者数:22人) 弥栄学園(開催日:12月5日(火)、参加者数:12人) 久美浜学園(開催日:10月27日(金)、参加者数:40人) 事務用品(ファイル等) 110千円 		<p>○(独)日本スポーツ振興センター共済掛金 3,315千円</p> <p>(小学生2,351人、中学生1,209人)</p> <p>○その他負担金 298千円</p> <p>京都府学校保健会、京都府学校保健主事会、京都府特別支援教育研究協議会、教育研究事業、教科用図書選定協議会の各負担金</p>					
	成果・課題	<p>○各学校の保健衛生環境の維持向上、健康の保持増進を図り、健全で安全な教育環境の推進につながった。</p> <p>○特別支援学級の交流活動の実施など、教育活動の充実のための環境づくりができた。</p>						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	02 小学校費						1,741千円	1,994千円	253千円	87.3 %	課	学校教育課
	目	02 小学校教育振興費											
	事業	05 小学校丹後学等教育活動実践事業											
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実												
目的	地域の学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の施設入場料等に係る経費を支援する。		主な財源										
概要	<p>○丹後学等教育活動実践事業（講師謝金等） 1,226千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹後学、総合的な学習活動推進事業（全小学校で実施） ・峰山地域 丹後ばら寿司づくり、稲作体験、校外学習 等 ・大宮地域 丹後ばら寿司づくり、稲作体験、校外学習 等 ・網野地域 丹後ばら寿司づくり、稲作体験、野菜作り、校外学習 等 ・丹後地域 丹後ばら寿司づくり、稲作体験、伝承料理体験、校外学習 等 ・弥栄地域 丹後ばら寿司づくり、稲作体験 等 ・久美浜地域 丹後ばら寿司づくり、稲作体験、野菜作り、校外学習 等 	<p>○教育研究事業負担金 146千円</p> <p>京丹後市小学校教育研究会 小学校教育に関する研究を推進し、小学校教育の充実・発展と教職員の資質の向上を図るため、各教科の研究、研修会等を実施</p> <p>○修学旅行引率補助金 369千円</p> <p>17校、引率教員63人</p>		<p>成果・課題</p> <p>○地元地域の特産品や、稲作づくりを体験することで、地域への理解と愛着を深めることができた。 ○児童の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続していくため、教職員の資質の向上や創意工夫による実践活動が必要である。</p>									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局					
	項	03 中学校費						1,386千円	1,577千円	191千円	87.8 %	課	学校教育課
	目	02 中学校教育振興費											
	事業	05 中学校丹後学等教育活動実践事業											
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実												
目的	府の研究指定を受け、教員の指導力向上等に取り組むとともに、地域学習を通じて郷土への理解、愛着と誇りを高め、将来の自己の生き方・在り方の探求を進める「丹後学」の充実を図る。 また、教育課題の解決に向けた教職員の研究事業に取り組むとともに、修学旅行における引率教員の経費を支援する。		主な財源	府補 子どもの教育のための総合交付金（10/10） 400千円									
概要	<p>○丹後学等教育活動実践事業 512千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・着付け体験学習（クリーニング代金、講師謝金 等） 203千円 参加者：453人 ・丹後学、総合的な学習活動 309千円 市単独事業、全中学校で実施（講話学習、職場体験 等） <p>○教育実践研究指定事業（消耗品費、バス運転委託料） 400千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未来を拓く学校づくり推進事業 200千円 実施校：網野学園 ※府補助事業（補助率10/10） 実施年度：令和4年度～6年度（3か年） ・未来の担い手育成プログラム研究校 200千円 実施校：丹後中学校 ※府補助事業（補助率10/10） 実施年度：令和4年度～6年度（3か年） 	<p>○教育研究事業負担金 83千円</p> <p>京丹後市中学校教育研究会 中学校教育に関する研究を推進し、教職員の資質の向上と中学校教育の推進を図るため、各教科の研究、研究集録・指導案の作成を実施。</p> <p>○修学旅行引率補助金 391千円</p> <p>6校、引率教員51人</p>		<p>成果・課題</p> <p>○地域社会における仕事や文化の体験活動を通して、丹後学の推進につながった。 ○府の研究指定を受けて教育活動に取り組むことで、生徒の基礎学力の向上を図り、コミュニケーション能力など、豊かな人間性を育む教育の推進につながった。 ○生徒の基礎学力の向上や豊かな人間性を育てる教育を継続していくため、教職員の資質の向上や創意工夫による実践活動が必要である。</p>									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	52,802千円	56,992千円	4,190千円	(参考)当初予算額	59,089千円	92.6%				
	目	02 小学校教育振興費										
	事業	01 小学校教育振興事業										
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源										
目的	児童の学力充実、向上を目指すとともに、豊かな人間性、健やかな体づくりなど児童の「たくましく生きる力」を育成するため、学力調査等を踏まえた指導、副読本の活用や学習教材冊子の作成、学校外での学習活動等を取り入れ、教育内容の充実を図る。											
主要な事務・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○入学写真、卒業写真、卒業記念品 (入学児童390人分、卒業児童385人分) 1,290千円 ○学力検査 (全校・各学年) 1,458千円 ○学習教材、教材消耗品等 44,381千円 <ul style="list-style-type: none"> ・学習教材消耗品 9,359千円 ・学習教材冊子「わたしたちの きょうたんご」(3年生用 440冊) 280千円 ・キャリアパスポート (ファイル購入) 400冊 62千円 ・令和6年度小学校教師用教科書・指導書 34,528千円 ・著作物使用料 152千円 	<ul style="list-style-type: none"> ○校外学習活動 5,670千円 <ul style="list-style-type: none"> 消耗品、バス運転委託料、自動車借上料、有料道路通行料、駐車場使用料、燃料費、講師費用弁償 ○第9回山陰海岸シオパーク小学生駅伝競走大会参加費 3千円 <ul style="list-style-type: none"> 開催日：令和5年10月28日 (土) 開催場所：全但バス但馬ドーム周辺駅伝コース (豊岡市日高町) 出場校：しんざん小学校 1校 (1チーム6人出場) 										
	成果・課題	<p>教員が授業等で他者の著作物を用いて作成した教材を、児童のタブレットに送信したり、サーバにアップロードしたりするなど、ICTを活用した授業に必要な公衆送信に要する経費</p>							<p>学校内での学習活動に加え、各学校の創意工夫や独自性を活かした様々な社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、児童の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。</p>			

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額		最終予算額		不用額		執行率		部	教育委員会事務局
	項	02 小学校費	9,398千円	10,239千円	841千円	(参考)当初予算額	9,220千円	91.7%				
	目	02 小学校教育振興費										
	事業	02 小学校教育振興備品整備事業										
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実	主な財源										
目的	児童の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させ、学力の向上を目指すため、授業に必要な学習教材を整備し、学習活動と教育内容の充実を図るとともに、学校図書を計画的に整備する。											
主要な事務・事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○教材備品及び図書購入 7,610千円 <ul style="list-style-type: none"> ・教材備品整備 4,282千円 ・学校図書整備 3,328千円 (うち、ふるさと応援寄附金充当 (丹後・宇川小学校) 計200千円) ○理科等振興備品購入 1,331千円 <ul style="list-style-type: none"> ・理科、算数備品整備 ○教材備品修繕費 (糸のこ、ミシンほか) 235千円 ○学校図書館図書管理システム使用料 168千円 ○教材用家電リサイクル料 11千円 <ul style="list-style-type: none"> (網野北、弥栄小学校：洗濯機リサイクル) ○教材備品処分費 43千円 <ul style="list-style-type: none"> (かぶと山小学校：オルガン処分) 	<ul style="list-style-type: none"> 国補 理科教育設備整備費等補助金 (1/2) 592千円 寄附金 ふるさと応援寄附金 200千円 										
	成果・課題	<p>学習指導要領の下、必要な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科備品については、国の補助金を活用し計画的に整備することで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。</p>										

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局														
	項	02 小学校費	19,243千円	19,708千円	465千円	97.6%																
	目	02 小学校教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課														
	事業	03 小学校就学援助事業				24,006千円																
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実					主な財源	国補 就学援助費補助金(1/2) 88千円 国補 特別支援教育就学奨励費補助金(1/2) 1,021千円															
目的	経済的理由によって就学困難な児童の保護者を支援するため、学用品費、学校給食費、医療費等を支給するとともに、特別支援学級入級児童等の保護者の経済的負担を軽減するため、奨励費を支援するほか、障害等により通学が困難な児童が公共交通等を利用した際の通学費(交通費)及び送迎時の燃料代を支給する。																					
主要な事務・事業の概要	○就学援助費 17,121千円		○特別支援教育就学奨励費 2,094千円																			
	<ul style="list-style-type: none"> 要保護認定者 16人(R4:11人) 177千円 <ul style="list-style-type: none"> 修学旅行費 91千円 医療費 86千円 準要保護認定者 230人(R4:240人) 15,592千円 <ul style="list-style-type: none"> 学用品費等 4,010千円 給食費 8,706千円 修学旅行費 1,198千円 医療費 53千円 オンライン学習通信費 1,625千円 		<ul style="list-style-type: none"> 認定者 78人(R4:61人) <ul style="list-style-type: none"> 学用品費等 874千円 給食費 1,008千円 修学旅行費 183千円 通学費(交通費) 29千円 ※対象者数 7人 																			
	<ul style="list-style-type: none"> 令和6年度新入学児童学用品費入学前支給分 1,352千円 <ul style="list-style-type: none"> 支給者数 25人 ※令和6年2月16日支給 		<ul style="list-style-type: none"> ○就学援助世帯貸出用Wi-Fiルーター貸出 28千円 <ul style="list-style-type: none"> 貸出者数 5人 																			
			<p><参考> 認定者数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就学援助費</td> <td>267人</td> <td>264人</td> <td>251人</td> <td>246</td> </tr> <tr> <td>就学奨励費</td> <td>53人</td> <td>45人</td> <td>61人</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table>						年度	R2	R3	R4	R5	就学援助費	267人	264人	251人	246	就学奨励費	53人	45人	61人
年度	R2	R3	R4	R5																		
就学援助費	267人	264人	251人	246																		
就学奨励費	53人	45人	61人	78																		
		<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等の支援に加え、障害のある児童生徒の通学費を支援することで、対象児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学児童学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学児童の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。 																				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	24,127千円	24,623千円	496千円	97.9%		
	目	02 中学校教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事業	01 中学校教育振興事業				25,101千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実					主な財源		
目的	生徒の学力充実、向上を目指すとともに、豊かな人間性、健やかな体づくりなど生徒の「たくましく生きる力」を育成するため、学力調査等を踏まえた指導、副読本の活用や学習教材冊子の作成、学校外での学習活動等を取り入れるとともに、体育大会への参加や部活動等を支援し、教育内容の充実を図る。							
主要な事務・事業の概要	○入学写真、卒業記念品 1,308千円 (入学生徒363人分、卒業生徒439人分)		○校外学習、部活動 14,053千円					
	○学習指導等 2,215千円		<ul style="list-style-type: none"> バス運転委託料 10,589千円 楽器運搬手数料(ティンパニ、チューバほか) 86千円 					
	○学習教材、教材消耗品等 6,551千円		<ul style="list-style-type: none"> (第60回京都府吹奏楽コンクール) 出場日: 令和5年8月2日(水) 会場: 京都コンサートホール 大ホール 出場校: 峰山中学校、大宮中学校 体育大会等選手派遣費補助金 3,378千円 					
	<ul style="list-style-type: none"> 学習教材消耗品 5,692千円 学習教材冊子「京丹後市地域学習副読本」1,350冊 742千円 著作物使用料 117千円 		<ul style="list-style-type: none"> 教員が授業等で他者の著作物を用いて作成した教材を、生徒のタブレットに送信したり、サーバにアップロードしたりするなど、ICTを活用した授業に必要な公衆送信に要する経費 					
		<p>成果・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校内での学習活動に加え、各学校の創意工夫や独自性を活かした様々な社会活動、体験活動などの校外学習を行うことで、生徒の基礎学力の向上や社会を生き抜く力を高めることができた。 						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	03 中学校費	7,336千円	7,922千円	586千円	92.6%		
	目	02 中学校教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事業	02 中学校教育振興備品整備事業				8,238千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		国補	理科教育設備整備費等補助金(1/2)		296千円		
			寄附金	ふるさと応援寄附金		300千円		
目的	生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実させ、学力の向上を目指すため、授業に必要な学習教材を整備し、学習活動と教育内容の拡充を図るとともに、学校図書を計画的に整備する。		主な財源					
主要な事務・事業の概要	○教材備品及び図書購入		6,180千円	成果・課題 学習指導要領の下、必要な学習教材、教育備品及び学校図書の整備に努めるとともに、理科備品については、国の補助金を活用し計画的に整備することで、学習指導要領に沿った教育環境を整えることができた。				
	・教材備品整備		2,863千円					
	・学校図書整備 (うち、ふるさと応援寄附金充当(丹後中学校)300千円)		1,448千円					
	・音楽備品 (チューバ、バスクラリネット、トランペットほか)		1,869千円					
	○理科振興備品購入		707千円					
	・理科教育に要する学習教材							
○教材備品修繕費(ミシン、楽器ほか)		60千円						
○楽器メンテナンス料(峰山、網野、弥栄中学校分)		330千円						
○学校図書館図書管理システム使用料		59千円						

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局													
	項	03 中学校費	20,001千円	20,297千円	296千円	98.5%															
	目	02 中学校教育振興費				(参考)当初予算額	課	学校教育課													
	事業	03 中学校就学援助事業				21,265千円															
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		国補	就学援助費補助金(1/2)		64千円															
			国補	特別支援教育就学奨励費補助金(1/2)		721千円															
目的	経済的理由によって就学困難な生徒の保護者を支援するため、学用品費、学校給食費、医療費等を支給するとともに、特別支援学級入級児童等の保護者の経済的負担を軽減するため、奨励費を支援するほか、障害等により通学が困難な児童が公共交通等を利用した際の通学費(交通費)及び送迎時の燃料代を支給する。		主な財源																		
主要な事務・事業の概要	○就学援助費		18,325千円	○特別支援教育就学奨励費		1,653千円															
	・要保護認定者 7人(R4:12人)		128千円	・認定者 33人(R4:27人)																	
	修学旅行費		128千円	学用品費等		588千円															
	・準要保護認定者 135人(R4:129人)		15,074千円	給食費		518千円															
	学用品費等		5,741千円	修学旅行費		354千円															
	給食費		4,697千円	通学費(交通費)		193千円 ※対象者数 3人															
修学旅行費		3,052千円	<参考> 認定者数 <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>就学援助費</td> <td>136人</td> <td>148人</td> <td>141人</td> <td>142人</td> </tr> <tr> <td>就学奨励費</td> <td>23人</td> <td>29人</td> <td>27人</td> <td>33人</td> </tr> </tbody> </table>				年度	R2	R3	R4	R5	就学援助費	136人	148人	141人	142人	就学奨励費	23人	29人	27人	33人
年度	R2	R3					R4	R5													
就学援助費	136人	148人					141人	142人													
就学奨励費	23人	29人					27人	33人													
オンライン学習通信費		1,584千円																			
・準要保護認定者(被災児童) 2人(R4:2人)		225千円																			
学用品費等		156千円																			
給食費		69千円	成果・課題 ○就学に必要な学用品費、給食費、修学旅行費等の支援に加え、障害のある児童生徒の通学費を支援することで、対象生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○新入学生徒学用品費の入学前支給を行ったことで、新入学生徒の保護者の経済的負担を軽減することができた。 ○制度内容の周知を徹底するとともに、世帯状況などを考慮し、公正かつ適正な援助に引き続き努める必要がある。																		
※申請者数 157人(R4:152人) 認定者数 142人(R4:141人)																					
・令和6年度新入学生徒学用品費入学前支給分		2,898千円																			
支給者数 46人 ※令和6年2月16日支給																					
○就学援助世帯貸出用Wi-Fiルーター貸出		23千円																			
・貸出者数 3人																					

予 算 科 目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局																																							
	項	01 教育総務費	50,027千円	50,284千円	257千円	99.4 %																																									
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課																																							
	事業	18 学校情報化推進事業				49,739千円																																									
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源	国補 公立学校情報機器整備費補助金(1/2) 660千円 府補 子どもの教育のための総合交付金(1/2) 165千円 諸収入 リーディングDXスクール事業委託金(10/10) 275千円																																											
目的	GIGAスクール構想に基づいて整備したICT環境を活用し、児童生徒にとってわかりやすく魅力のある授業を進め、児童生徒の情報利活用能力を育成するほか、児童生徒・教職員1人1台タブレット端末等の電子機器の導入、校内LAN及び学校情報通信ネットワークを維持管理するとともに、教育のICT化及び校務の効率化を図る。																																														
主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要	○需用費 2,227千円		○リーディングDXスクール事業 229千円																																												
	・パソコン・校内LAN関連消耗品、修繕費 2,227千円		・講師謝金 2人、3回 161千円																																												
	○通信運搬費 1,129千円		・講師旅費 68千円																																												
	・Wi-Fiルータ通信費 82千円		＜参考＞パソコン等台数(令和6年3月末時点)																																												
・光回線通信費 1,047千円		<table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>種別</th> <th>小学校</th> <th>中学校</th> <th>事務局</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">普通教室用</td> <td>ノートPC</td> <td>17</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>タブレット</td> <td>146</td> <td>57</td> <td>0</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>タッチパネル式電子黒板</td> <td>146</td> <td>57</td> <td>0</td> <td>203</td> </tr> <tr> <td>校務用</td> <td>ノートPC</td> <td>304</td> <td>197</td> <td>39</td> <td>540</td> </tr> <tr> <td>図書室用</td> <td>ノートPC</td> <td>17</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>授業用</td> <td>iPad</td> <td>2,691</td> <td>1,544</td> <td>17</td> <td>4,252</td> </tr> </tbody> </table>		区分	種別	小学校	中学校	事務局	合計	普通教室用	ノートPC	17	0	0	17	タブレット	146	57	0	203	タッチパネル式電子黒板	146	57	0	203	校務用	ノートPC	304	197	39	540	図書室用	ノートPC	17	6	0	23	授業用	iPad	2,691	1,544	17	4,252				
区分	種別	小学校	中学校	事務局	合計																																										
普通教室用	ノートPC	17	0	0	17																																										
	タブレット	146	57	0	203																																										
	タッチパネル式電子黒板	146	57	0	203																																										
校務用	ノートPC	304	197	39	540																																										
図書室用	ノートPC	17	6	0	23																																										
授業用	iPad	2,691	1,544	17	4,252																																										
○手数料(電子黒板等移設手数料) 175千円		○使用料及び賃借料 27,888千円		○主体的で協働的な学びの実現に向けた学びの実現に向け、リーディングDX事業を実施し、Googleアカウント導入準備を進めた。 ○ネットワークを利用した遠隔操作等により、小中学校等に整備した校内LAN、パソコン(校務、普通教室、タブレット)、電子黒板及びサーバー機器、並びにGIGAスクール情報機器等整備事業にて導入したタブレット、プリンタ、電子黒板接続装置等の維持管理を効果的かつ適切に行うことができた。 ○引続き、ICT支援員を適切に配置しながら、児童・生徒・教職員のICT機器や授業支援システムを積極的に利活用し、授業改善につなげていく必要がある。																																											
○委託料 18,379千円		・パソコン借上料(校務用パソコン、サーバー) 18,694千円																																													
・サーバーシステム・パソコン・校内LAN等保守委託料 3,818千円		・ソフトウェア使用料 9,169千円																																													
・サーバー機器更新設定委託料 2,761千円		校務支援システム、ウイルス対策ソフト、採点支援システムほか																																													
・校務支援システム保守委託料 792千円		・クラウドサービス利用料(Googleアカウント発行) 25千円																																													
・ICT支援員業務委託料(5人) 10,513千円		レンタルサーバー使用、ドメイン取得																																													
・Googleアカウント発行管理システム導入委託料 495千円																																															

予 算 科 目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	17,365千円	17,373千円	8千円	99.9 %		
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課
	事業	19 グローバル人材育成事業				16,566千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源	府補 子どもの教育のための総合交付金 4,634千円 繰入金 韓哲・まちづくり夢基金繰入金 12,636千円 諸収入 国際交流事業等参加料 95千円				
目的	国際感覚を持ち将来グローバル社会で活躍できる人材を育成するため、市内の小中学校に在籍する児童生徒を中心に、諸外国への興味関心を深め文化や伝統を理解する機会を創設し外国語教育の充実を図るとともに、産学連携のもと新たな可能性を創造するSTEAM教育の推進を図る。							
主 要 な 事 務 ・ 事 業 の 概 要	OKyotango English Day【対象：小3・4年】 1千円		○中学生の海外派遣【対象：中2年】 5,872千円					
	CIR・ALTによる異文化理解・国際交流プログラム 実施日：令和5年10月21日(土) 参加者数：11人 (消耗品費、通信運搬費)		学校での授業やホームステイを通じて、語学力の向上及び国際的視野を持った人材を育成するため、中学生を海外へ派遣した。					
	OKyotango English Camp【対象：小5・6年】 232千円		派遣先：ニュージーランド ニュープリマス 参加者数：15人(選考)					
	CIR・ALTによる1泊2日の異文化理解・国際交流プログラム 実施日：令和5年10月21日(土)・22日(日) 参加者数：19人 (通信運搬費、施設使用料ほか)		派遣期間：令和6年3月16日(土)～24日(日) 8泊9日間 (コーディネーター謝金、旅費、中学生海外派遣事業費補助金ほか)					
○オンライン留学【対象：中1年、高校生】 5千円		OKyotango Sea Labo【対象：中3年・高2年】 5,214千円						
フィリピンとのオンライン交流を実施 ※全体研修7回(高校生は5回)、各家庭でのオンライン交流複数回 事業期間：令和5年10月3日(火)～12月5日(火) 参加者数：中学生20人/高校生10人 (通信運搬費)		京丹後の良さを学び、STEAM人材として本市の未来を切りひらくイノベーターを育成する探求型ワークショップを英語で開催 ワークショップ等開催期間：令和5年8月8日(火)～12日(土)・9月2日(土) 参加者数：33人(中学3年生：17人、高校2年生：16人) (委託料、講師謝金、費用弁償、施設使用料ほか)						
○英語力向上アプリ導入【対象：市内全中1～3年】 6,041千円		一人一台配付しているタブレットにアプリを導入し、学校及び家庭学習において発音とスピーキング能力を中心とした英語力の向上に取り組んだ。 (ライセンス使用料、通信運搬費ほか)		○国際交流事業を推進することにより語学力の向上及び国際的視野をもった人材を育成することができた。 ○ICTの活用やオンラインによる交流を充実させることにより、生徒の学び意欲の向上を促進するとともに、国際的視野を広げることができた。 ○STEAM教育の推進により、丹後愛を育み、創造性への自信向上等を図ることができた。 ○国際的視野をもった児童生徒を育成するため、さらなる内容の充実を図る必要がある。				

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局	
	項	01 教育総務費	25,486千円	25,750千円	264千円	98.9%			
	目	03 外国語活動推進費				(参考)当初予算額	課	教育総務課	
	事業	01 外国語指導助手招致事業				29,002千円			
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実					主な財源			
目的	中学校の英語授業補助、小学校の外国語授業及び外国語活動推進のため、一般財団法人自治体国際化協会のJETプログラムを活用して、外国語指導助手（ALT）を招致・任用する。								
主要な事務・事業の概要	○会計年度任用職員（外国語指導助手）任用経費（6人）		22,981千円	○外国語指導助手の賃貸住宅に係る経費		455千円			
	・報酬 任用初年度： 月額280千円		19,560千円	・住居の更新料、住宅保険等		345千円			
	任用2年目： 月額300千円			・備品修繕料等		110千円			
	任用3年目： 月額325千円			○負担金		1,024千円			
	任用4、5年目： 月額330千円			・来日後オリエンテーション参加費用負担金（1人分）		77千円			
・社会保険料、労災保険料、雇用保険料、共済組合負担金		3,184千円	・自治体国際化協会負担金		690千円				
・費用弁償		237千円	・来日渡航費用負担金（1人分）		257千円				
○外国語指導助手支援員任用経費（1人）		52千円							
出入国時及び生活支援等に係る通訳									
○会計年度任用職員（育休代替）任用経費（2人）		967千円							
・報酬、費用弁償		830千円	成果・課題	○日本人の外国語教諭のサポート並びにEnglishCampなどの事業において一役を担っている。また、国際理解教育の促進などALTの果たす役割が期待されており、今後もALTの継続的な確保が必要である。 ○切れ目のない継続的な活用のため、ALTの心身の負担軽減などの生活支援の充実が必要である。					
・社会保険料		137千円							
○外国語指導助手等の旅費		7千円							
・研修旅費等（ALT、職員）									

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局								
	項	01 教育総務費	4,322千円	4,370千円	48千円	98.9%										
	目	02 事務局費				(参考)当初予算額	課	学校教育課								
	事業	20 国際交流員招致事業				4,494千円										
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実					主な財源	諸収入 京都府市町村職員等共同研修助成金 11千円									
目的	グローバル化に対応するため、一般財団法人自治体国際化協会の「語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）」を活用し、国際交流員（CIR）を任用する。															
主要な事務・事業の概要	国際交流員を学校教育課に配置し、国際交流や異文化理解について、その専門性と見識や経験を大いに活かした指導、助言を行った。															
	○会計年度任用職員任用経費（国際交流員（CIR）1人）		4,166千円													
	・報酬		3,594千円													
	・共済費（社会保険料、雇用保険料等）		572千円													
	○旅費（費用弁償）		26千円													
国際交流員研修等																
○各種負担金		130千円														
・研修参加負担金		10千円														
・自治体国際化協会負担金		120千円														
<table border="1"> <tr> <td></td> <td>金額</td> </tr> <tr> <td>人員割負担金</td> <td>92千円</td> </tr> <tr> <td>損害保険料</td> <td>28千円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>120千円</td> </tr> </table>			金額	人員割負担金	92千円	損害保険料	28千円	計	120千円	成果・課題		○国際交流員を配置し、その専門性や経験を活かし国際理解教育やSTEAM教育の推進を図ることができた。 ○継続的な任用のため、国際交流員の心身の負担を軽減できるよう生活面におけるサポートの充実が必要である。				
	金額															
人員割負担金	92千円															
損害保険料	28千円															
計	120千円															

予算科目	款	10 教育費	本年度決算額	最終予算額	不用額	執行率	部	教育委員会事務局
	項	01 教育総務費	3,183千円	3,183千円	0千円	100.0%		課
	目	04 奨学費				(参考)当初予算額		
	事業	03 谷口謙・未来応援基金				2,580千円		
基本計画	26 未来を拓く学校教育の充実		主な財源	財産収入	谷口謙・未来応援基金利息収入	27千円		
目的	経済的理由により大学等での修学が困難なものに対し、奨学金を貸し付けることを目的に、谷口謙・未来応援基金へ積み立てるもの。		諸収入	奨学資金貸付償還金		3,156千円		
主要な事務・事業の概要	○谷口謙・未来応援基金積立金 3,183千円 ・京丹後市貸付奨学金で貸し付けた奨学資金償還金分 3,156千円 ・利子分 27千円							
	(単位：千円)							
	令和4年度末 現在高	令和5年度中増減額			令和5年度末 現在高			
①	繰入金 ②	運用利子 ③	積立金 ④	①-②+③+④				
68,782	7,008	27	3,156	64,957				
(充当：1事業)								
・奨学金事業		7,008千円						
			成果・課題					